

2022(令和4)年度 学校自己評価 評価結果

各評価の観点について、十分実現されていると思われますか。

そう思う…4 少しそう思う…3 あまりそう思わない…2 そう思わない…1 自分には評価できない…0

■個人評価

重点目標	取り組み	評価の観点	評価者	評価点	R3	コメント	評価点	R3
(1) 学力向上・進路希望の実現とキャリア教育の充実	① 学力向上に向けての取り組みの充実	・学習環境の充実、授業内容の工夫等により生徒の学習意欲を高めることができたか。	学習指導(教科代表)	4	4	コロナにおける学習環境への影響も減り、対面での授業において学習意欲を高める工夫がしっかり出来た。	3.2	3.2
		・日常の家庭学習の習慣が身につくよう、予習・復習の重要性を強調できたか。		3	3	授業の予習に取り組むように促したり、週末課題を課したりすることで学習習慣が身につくよう工夫はできていたが、自主的な学習活動については課題が残る。	2.7	2.8
		・朝ドリルの実施などにより、学習の質・量を高めることができたか。		4	4	SHRで朝ドリルを実施し、生徒の学力向上に寄与することができた。	2.6	2.8
	② 進路指導の充実	・キャリア教育とも連携しつつ、より適切な進路選択ができる力をつけさせることができたか。	進路	4	4	探究・学習係と連携し、進路選択に向け、考える力をつけさせることができたように思う。	2.9	3.1
		・補習授業や模擬試験を生徒のステップアップにつなげられたか。		4	4	補習授業や模擬試験を多くの生徒が真剣に根気よく受け続け、学力の向上につながった。	3.1	3.2
		・生徒の進路希望を実現できたか。		4	4	親身な指導により、多くの生徒が進路希望を実現できた。	3.1	3.2
③ キャリア教育の充実	・現在の学習と将来の職業生活との関係を生徒が理解できるような取り組みができたか。	探究・学習	3	4	2～3年での探究学習を通して、将来の職業や自己のあり方生き方、地域の抱える課題等について、各教科での学びと結びつけて理解を深めることができた。	2.9	3.0	
	・就業体験の意義を周知し、多くの生徒が就業体験に参加できたか。	進路	3	2	コロナ禍であったが、感染対策を徹底し、開催時期の変更や期間の短縮をして実施できた。ただ、参加者は少なかった。	2.6	2.6	
(2) 生徒諸活動への支援	① 生徒会活動の充実	・生徒会活動を通して自主性・協調性や社会貢献の精神を育成できたか。	生徒会	4	4	問題意識を共有し互いの意見を尊重しながら自分の意見を出し合うことが出来た。	3.1	3.1
		・クラブ活動への加入を推進できたか。		3	3	従来通りのクラブ紹介が出来なかったが各班とも例年並み人数が確保できた。	3.0	2.9
	② クラブ活動の充実	・クラブ活動の活性化を促す支援ができたか。		2	2	コロナ禍において様々な制約の中で、壮行会等実施できず残念だった。	3.0	3.1
(3) 地域連携と開かれた学校の創造	① 外部連携の拡大	・同窓会・PTAとの連携は十分行われたか。	企画	3	3	コロナ禍により活動が制限されたが、オンラインによるPTA研修会など充実した活動もできた。	2.8	2.7
		・学校評議員会を予定通り実施し、外部連携を深められたか。		3	3	例年並みに学校評議員会を実施し、外部連携を深めることができた。	2.9	2.9
		・上田養護学校等との交流を通じて学校間の連携が深められたか。		4	3	コロナ禍においても、オンライン交流会など新たな交流方法を実現できた。	2.9	2.6
	② 情報の発信と要望の受容	・公開授業を保護者や中学生に対して充実したものとして実施できたか。	企画	2	2	新型コロナの感染状況により公開授業や学校説明会を実施することができなかった。	2.8	3.1
		・学校行事や生徒会、クラブ活動等について積極的にHPに掲載し、情報発信ができたか。		2	4	クラブ活動等HPの内容を充実させ情報発信に取り組むことがやや不十分であった。	2.3	2.8
		・保護者、生徒アンケートを実施し、意見要望の受容ができ、その内容を検討、改善できたか。		3	3	例年並みの取り組みを行い、課題を各分掌や教科で共有している。	3.1	3.2
(4) 生徒の健全育成と安全安心な学校づくり	① きめ細かな生徒指導の実施	・基本的な生活習慣の確立によりマナー・ルールを守る精神を育成できたか。	生指	3	3	コロナ禍の下、登校指導に苦勞することも多かった。交通マナーに関する苦情も多く、さらなる指導の徹底が必要である。	3.1	3.0
		・いじめや暴力を許さない指導を有効に実施することができたか。		3	4	SNSに関連して、写真・動画、仲間外れなどの問題に対応する必要性が増している。	3.2	3.2
	② 生徒支援生徒相談体制の拡充	・不登校や発達障害など問題を抱える生徒への支援・相談を有効に実施できたか。	保健	3	3	初期段階で情報を掴み、継続して支援することが大切。学校のみでは解決できない事案が多くなり、支援の必要な者は生徒ばかりではなく、関係機関との連携がより重要となった。	3.1	3.3
		・生徒の健康管理、安全管理を適切に行うことができたか。		3	3	検診は計画通り実施できた。様々な疾患やアレルギーや体質異常などを持って入学する生徒が多くなり、個別対応や情報の把握に努めている。	3.1	3.3
	③ 危機管理の徹底	・防災対策は災害に対して有効に機能できるものであったか。	教務事務	3	3	例年通りの計画に従い対策を講じた。防災訓練は避難訓練無しで実施した。	3.0	2.9
		・学校危機に現実に対応できるマニュアルの点検と整備ができたか。		3	3	例年通りの点検と整備を行った。オクレンジャーは有効に活用できている。	2.9	2.9
・工事中の安全確保を含め、学校施設の安全管理を徹底できたか。		4		4	工事の施工等に当たり安全確保を徹底した。	3.1	3.0	